

目標	これからの日本の食料生産を発展させていくためには、専門家の努力のほかに、国民一人一人の努力が必要であることに気がつき、自分たちにどんなことができるのか考えることができる。(思考・判断・表現)
----	---

使用した ICT 機器類・教具等	タブレット端末, 大型テレビ, HDMI ケーブル, OHC
------------------	--------------------------------

思考ツール・プログラミング	コア・マトリクス
---------------	----------

◆プログラミング的思考とのつながり

- ・コア・マトリクスを用いることで、課題について多面的・多角的な視点で追究し、自分の意見と友達の見解とを関連づけて情報を整理しながら、考えを深めたり新たな考えをもったりする。

◆授業の実際

1 どのようにすれば、日本の食料生産を発展させていくことができるか話し合う。

- ゲストティーチャーや一人調べの結果から、日本の農業が危機的状況にあることに気づき、それに対する対応策を調べ、コア・マトリクスを活用して整理した。
- コア・マトリクスに整理したものを発表しあい、それぞれ調べて考えたことを伝えることで、さまざまな対策がなされていることを理解することができた。

2 出された対応策は誰が行っているものかを問う。

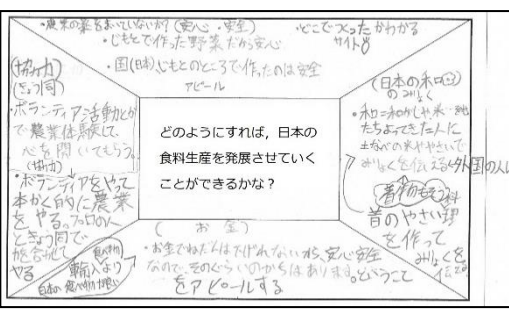
- 自分たちが考えた対応策は、農家などの生産者が行うことに偏っていることに気がつき、食料生産の発展には消費者の協力が必要なことに気がつき始めた。
- 消費者のなかには自分たちが含まれていることを知り、自分たちの協力も我が国の食料生産の発展に大切であることがわかった。

3 農業を発展させるために自分たちにできることはないか考え、発表する。

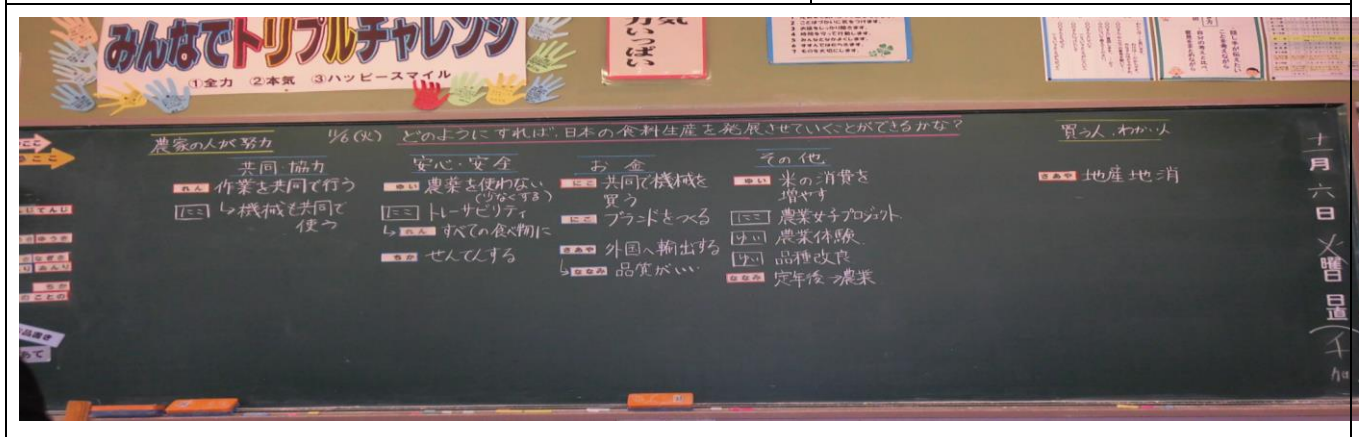
- それまで、農業に対して他人事であった子どもたちであるが、農業の現実を知り、切実感をもって自分たちができることを考えることができた。
- 計3回のクロストークを行ったことで、一人調べでは、得られなかった情報をもとに自分たちができることを考え、発表する姿が見られた。



[ 根拠をもとにクロストークを行う ]



[ 意見をコア・マトリクス書いて整理する ]



◆実践を通して

- ・一人調べの時間やクロストークの時間を豊富に確保したことで、根拠をもとに課題解決に向けて考えたことを発言する児童の姿が見られた。それと同時に、クロストークの中で自身のもつ考えをさらに深めたり、内省したりしたことをコア・マトリクスに整理してまとめることで、資料の読み取りから考えたことを表現する力を育てることができた。

